

令和6年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育の概況	播種後の高温で極端に前進していた生育は、3月に入ってから気温の低下に伴い緩慢となり、小麦で平年より5日程度、二条大麦で平年より7日程度早い状況となっている。出穂期は平年より早まる見込みで、現在の作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	除草剤散布、赤かび病防除・開花期追肥準備、排水溝の整備

1 気象経過 (前橋橋地方気象台データの平年差・比、※3月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月	※3月
平均気温	+1.3℃	+1.7℃	+1.9℃	+2.0℃	-0.2℃
降水量	79%	59%	96%	238%	107%
日照時間	115%	110%	108%	92%	109%

2 生育概況

(1) 概要

初期生育は順調で、播種が早かったほ場を中心に草丈、茎数は平年を上回り、麦踏みの開始時期も早まった。12月下旬から1月中旬で乾燥傾向となったため、大麦の一部で下葉の黄化・葉先の枯れが見られたが、1月下旬から2月上旬の降雨により回復した。2月は気温が著しく高く推移し、平年より生育が大幅に早まったが、3月は一転して低温傾向が続き生育が緩慢となったため、二条大麦で平年より7日程度、六条大麦・小麦で5日程度早まる程度になっている。草丈が高く、茎数は平年並～やや多く確保されており、2月下旬からのまとまった降雨で湿害や肥料切れによる黄化が散見されている。3月3日、10日、11日には氷点下を記録したが、現在のところ幼穂への影響は確認されていない。今後、気温が平年並に推移した場合、出穂期は平年よりやや早まることが予想されており、引き続き凍霜害の発生が懸念される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

目立った病害虫は発生していない。雑草の発生は地域により差が見られ、播種が早かった地域でやや多く見られているが、概ね平年並から少ない傾向となっている(コアカザ、ミチヤナギ、スズメノテッポウ、ヤグルマギク、ヤエムグラ、カラスノエンドウ)。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほ(さとのそら)のデータの平均は、播種期は11月24日(過去平均比+3日)、3月20日現在の草丈が32.8cm(同128%)、茎数が1,070本/m²(同104)、幼穂長が5.0mm(同119%)となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月15日播種)では、3月20日現在、草丈が35.4cm(過去10カ年平均比136%)、茎数が949本/m²(同98%)であり、幼穂形成始期は2月20日(同-11日)、節間伸長始期は3月14日(同-7日)となっている。

(4) 作柄のまとめ

県全体の小麦の作柄は、「並」が見込まれる。

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	播種期	2月20日		3月20日		
		草丈 cm	茎数 本/m ²	草丈 cm	茎数 本/m ²	幼穂長 mm
平 均	11月25日(+4日)	14.9(141)	1,234(137)	32.8(128)	1070(104)	5.0(119)
前橋市	11月22日(-日)	10.6(-)	1,216(-)	24.5(-)	1655(-)	3.0(-)
伊勢崎市	11月27日(+5日)	15.6(166)	1,562(202)	36.0(153)	800(96)	7.3(153)
高崎市	11月23日(+8日)	14.3(117)	908(79)	29.7(106)	1006(100)	5.5(86)
太田市	11月30日(+1日)	11.8(117)	756(146)	24.2(111)	907(98)	2.5(130)
千代田町	11月19日(±0日)	17.7(166)	1,713(146)	41.3(141)	1565(116)	4.7(123)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市はほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去2年、高崎市は同4年、太田市は同10年、千代田町は同2年の値。前橋市は県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	幼穂形 成始期 月/日	節間伸 長始期 月/日	2月10日		3月1日		3月20日	
			草丈 cm	茎数 本/m ²	草丈 cm	茎数 本/m ²	草丈 cm	茎数 本/m ²
11/15 (±0)	2/20 (-11)	3/14 (-7)	10.9 (121)	673 (136)	20.0 (166)	1061 (122)	35.4 (136)	949 (98)

* () 内は平年値は過去10年の平均に対する日数および比率(%)。

表3 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 排水対策

排水対策を未実施のほ場では早急に排水溝等を設置する。実施ほ場においては排水溝の確認や手直し等を随時実施し、ほ場の過湿を回避する。

(2) 追肥（実肥）

パン用小麦品種「ゆめかおり」は、赤かび病の防除との同時作業による尿素溶液4～8%での葉面散布や開花期頃に窒素成分で2～4kgの追肥を実施し、タンパク質含量の向上を図る。

(3) 病害虫対策

麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール（赤かび病の病原菌が産生するかび毒）汚染防止のため、赤かび病防除を必ず実施する。本年は麦類の生育が平年より早まっているため、ほ場の生育状況を必ず確認し、防除適期を逸しないよう注意する。

各麦種の防除適期は、小麦が開花始期～開花期（出穂7～10日後頃）、二条大麦が蒴殻抽出期（穂揃期10日後頃＝出穂12～14日後頃）、六条大麦が開花始期～開花期（出穂3～5日後頃）である。防除後の気温が高く、降雨が多い場合は1回目散布の10日後頃に追加防除を行う。

うどんこ病やアブラムシは、発生状況に応じて防除を行う。「つるぴかり」「きぬの波」はうどんこ病に弱く、過繁茂のほ場で発生しやすい点に留意する。

(4) 雑草対策

収穫物への種子混入が問題となるカラスノエンドウ等は確実に処理する。

カラスミギやネズミミギ等の難防除雑草は、周辺ほ場への拡散や翌年の多発につながるため、発生量が少ないうちに抜き取りを行う。

ほ場をよく観察し、殺草限界前までに適切に処理するとともに、除草剤の使用晩限を超えないよう注意する。

(5) 凍霜害対策

出穂期までの低温危険期の天候に留意する。小麦は幼穂長 3mm のときに -2°C 以下、20mm のときに 0°C 以下の低温で幼穂凍死が発生する。幼穂凍死は低温日から 4～5 日後の幼穂の変色や新葉が抽出したときの黄化症状などにより確認できる。また、幼穂が凍死すると遅れ穂が発生するため、収穫時期に留意するとともに、調製を丁寧に行い、未熟粒の混入を防止する。

不稔粒は、出穂 8～10 日前の -1°C 以下の低温遭遇や、出穂前後の降霜などにより発生する。不稔粒は赤かび病の発生を助長するため、適正に防除を行う。

【参考資料】

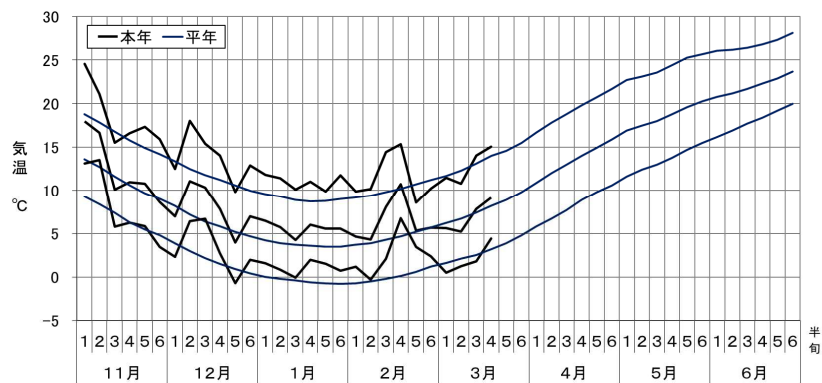


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

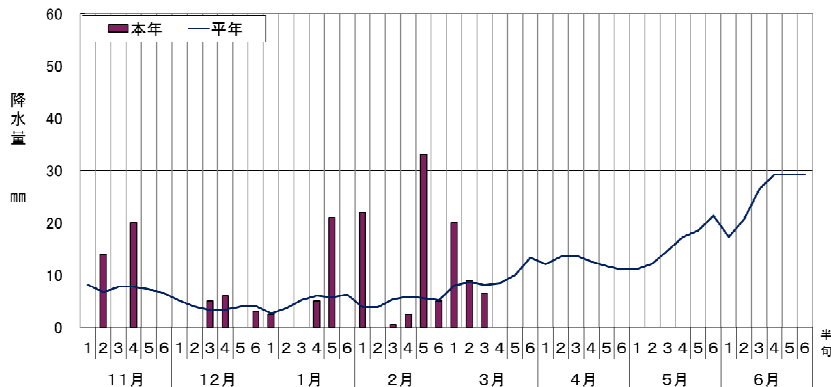


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

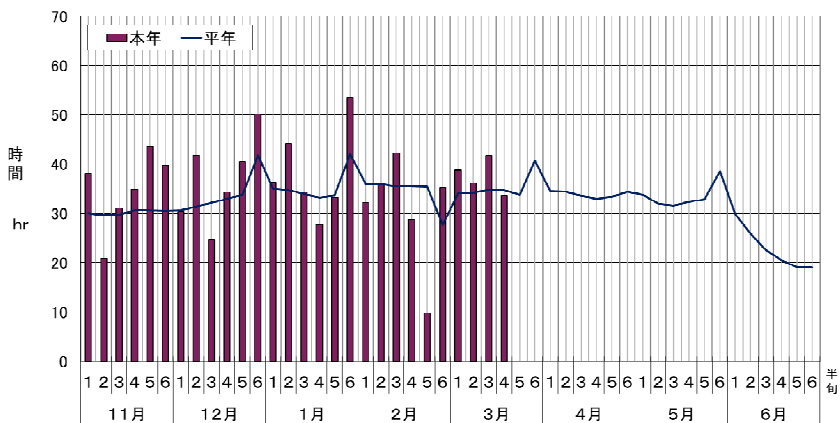


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）